

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	平成30年12月24日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0371100413-00&PrEfCd=03&VerSi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・基本理念の下、太陽のように、あたたかく、利用者に寄り添う介護支援をしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>海岸から数キロメートルの位置にあって、3.11大震災津波の被害を受け修繕再開したグループホームである。小学校、中学校は高台へ移転し、跡地に復興ラグビー場が新設され、周辺には新興住宅やアパートが増えている。職員は理念の「太陽の如く“あかるく、あたたかく、まるく”」を共有し、利用者に寄り添い、本人や家族の思いを受けとめ、利用者と職員が共に、健康や事故防止に声を掛け合うなど、共同生活者として充実した介護サービスを提供している。また、医療と介護の連携を図り、家族の意向に沿い、訪問医療の医師の指導のもと、5名の看取りを行うなど家族の信頼を得ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで理念について職員全体で話し合い実践につなげている。	理念を「太陽の如く“あかるく、あたたかく、まろく”」と定め、職員会議や日々のミーティングで確認し共有を図っている。利用者一人一人の実態に即し、寄り添い「出来る事を大切に」にしたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と山の神様祭りに参加したり鶴住居祭りで虎舞を見物したり、林檎狩りをしたりと交流しております。	町内会に加入しており回覧板等により地域情報を得ている。協力病院にも広報「ございしょの里」を配置し、地域の理解を深めるように努めている。3.11大震災津波被害地で、小学校・中学校が移転し交流が中断している。	震災前は小・中学校の通学路に面し交流があったが学校が、高台へ移転し中断している。地域の小、中学生、幼稚園児、新住民などとの交流の機会の創出による、地域とのふれあいを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の代表者や行政職員の参加を得て活動、状況を報告し委員の皆さんからアドバイスをいただいております。	ホームは津波被害地で、運営推進会議でも防災の意見が出され、安全確保に万全を期している。委員提案のリンゴ狩りを行ったほか、委員も避難訓練に参加し助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員がおり相談、協力関係を築いております。	運営推進会議委員の地域包括支援センター職員から、福祉関連の情報を得ている。市主催の防災会議に法人代表が参加し、利用者の安全確保のため行政と連携を図っている。生活保護受給者が複数入居しており、時折市の担当者が来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず職員が利用者の見守りを行い居室や玄関に鍵をかけていません。夜間のみ安全確保のため玄関に施錠しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定め定期的に研修会を開催し職員に徹底を図っている。特にことばによる行動抑制に留意し、職員間でも注意し合い、利用者の心情に配慮し安心した生活を送られるケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度ではありますが内部研修を行い、虐待はあってはならない指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利養護を利用されている方が1名おります。全スタッフが専門的な外部研修を受けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約については、サービスを利用する前に利用者及び利用者家族に契約書、重要事項説明書を用いた説明の上で署名、捺印をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談及び苦情受付窓口を設けている事を記載しております。見やすい場所の玄関に「投書箱」を設置しております。苦情や要望はありませんが、担当スタッフが敏速に対応するようになっております。	広報紙に併せて担当職員が一人一人に手書きでホームでの様子を「ございしょの里便り」として届けている。家族が来所した際に意向を伺い、遠方の方には電話で要望等を把握している。利用者に寄り添って聴き取り、買物や手伝いなどに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日少しでも話す機会を作っている。	毎月の職員会議に法人代表も参加し、毎日の申し送り時等では管理者が職員意見などの把握に努めている。職員の提案でレク用にカルタを購入し、一緒にゲームを行い利用者には楽しい時間を提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。 内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を聞いて要望などに耳を傾けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階でご家族の思いに、耳を傾け意向を伺うように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族との基本情報などを参考にしてサービスケアの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に物を作ったり楽しんだりするように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りで本人の様子を知らせ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望があれば対応していきたい。	3.11大震災・津波により周辺の環境が一変し、今は高台のりんご園やコンビニに出かけている。家族や親戚の方が来所した際は、居室や食堂、休憩室でゆっくりとした時間を過ごしている。美容師が2カ月に1回来所し、新たな馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何かをする時は、利用者同士で助け合い、同じテーブルを囲み食事をし、笑いのたえない雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後断続的な関わりを必要、希望される方はいませんが、今後断続的な関わりを必要とする利用者や家族がおりましたら対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し、希望や意向の把握に努めている。	入居に先立ち家族からの聴き取り等で利用者の思いを把握し、入居後は利用者により寄り添ったソファなどでゆっくりとくつろぐ中で意向を聴き取っている。テーブル拭きなどの手伝い、折り紙、習字などの趣味や買い物の要望に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引継ぎ口頭で状況報告の上で申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者及び家族の希望や意見を取り入れて作成している。	毎月ケアマネがモニタリングを行い、家族の意向や医師からの投薬情報を加味して毎月のケア会議で話し合い、3か月毎に計画を見直している。家族へはケアマネが計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録、申し送りノートなどに記録し、引継ぎ時口頭で申し送る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、家族同行でお願いしています。緊急時は、家族の希望を優先し職員が同行するなど支援する事があります。	約半数の方は、入居前からのかかりつけ医に家族同行で受診している。バイタルチェックや生活情報を提供しているほか、家族の要望により職員が同行する場合もある。月1回来所する訪問診療を約半数が利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、バイタル測定をし変化があった時は病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院必要時、利用者の経過記録普段の様子を介護サマリーで伝えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は、かかりつけ医に連絡し受診しています。	重度化に応じ、終末期には医療機関等に移送することとしているが、家族の意向に沿って訪問診療医の指導を得て、5名の看取りを行った。職員は不安があるものの、医師の助言を受け、本人や家族のニーズに応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり職員がいつも閲覧できる場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回(3月・9月)行っており、消防署や消防団員が参加している。	年2回消防署や地域住民の参加を得て避難訓練を行っている。2階の車椅子利用の方をマットを使って階下に下ろす訓練に対し、消防署の講評「慌てないで落ち着いて」は、次回に生かすこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りには、十分配慮し常に言葉使いや対応には気をつけている。言葉使いや対応について職員間でそのつど声かけて直すように取り組んでいます。内部研修を行っている。	職員会議や研修を通じ利用者を敬う意識の向上を図り、心情に配慮したケアに努めている。トイレや入浴介助時は羞恥心に配慮し、さりげない声かけや誘導をしている。「トイレ」の言葉に敏感な反応を示す方もあり、身振りなども用いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とゆっくり話をしている。利用者に対し見守りの中で服装、食事など自由にさせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できるように心がけてはいますが、全ての希望に応えられないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に任せている。希望メニューを聞いた後片付けを一緒に行っている。	献立は利用者の要望も入れて職員が作り、1号棟は職員、2号棟は調理専門員が地元の食材を取り入れて調理している。利用者はテーブル拭きや食器拭きを手伝い、みずき団子作りも楽しんでいる。希望に沿って誕生日にケーキも提供する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況、咀嚼に応じた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけをして行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便、尿の回数チェックを行っていて、それぞれに合わせた排泄支援を実施している。	排泄パターンを把握し、見守り、声かけ、誘導を行い、殆どの方がトイレで排泄している。日中は布パンツが2名で他はリハビリパンツにパットを利用し、寝たきりの方1名はオムツを用いている。2名が夜間居室でポータブルトイレを使っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食事など多く摂るように工夫して運動も取り入れてます。一人一人の状態です薬を使用するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がない限り3日に1度の入浴です。入浴中は、リラックスでき楽しく過ごせるよう心かけている。	全員が楽しんで入浴し、避けたい人はいない。大型浴槽に2名入浴し、菖蒲湯、柚子湯を楽しみながら季節の話題に話が弾み、入浴剤を用い色や香を楽しんでいる。夏にはシャワー浴や足湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に合わせて、自由に居室で休んでいただいている。 就寝時間や昼寝時間は、利用者のペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者の薬を理解して薬が変わった時は、その都度服薬リストに目を通している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞紙をたたんだり、塗り絵をしたり、それぞれが好きな事をしていただいております。お願いできる事は頼み、「有難うございます」と感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は、バスハイクに出かけている。 (釜石大観音参拝、紅葉見物、林檎狩等)	天候の穏やかな日には、工事車両に注意しながら散歩し、前庭のベンチで日向ぼっこを楽しんでいる。菜園やプランターで、野菜や花イチゴを栽培している。ホームでのドライブ外出の他、家族が連れて外出・外食されたり、お盆や正月に外泊される方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金は、施設で管理している。利用者が希望する時は、職員が同行するなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者が2名おり、それ以外の利用者には、家族からの電話や手紙のとりつぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第一に考え快適に過ごしていただける様季節ごとの飾りを作ったりと楽しんでいただいております。	広々としたロビーに食卓テーブルやソファ、カラオケ機が置かれ、季節毎の飾り、利用者手作りの折り紙や習字の作品が飾られ、潤いのある場となっている。エアコン、温風ヒーター、加湿器により快適な温度、湿度が保たれた快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及び談話室に椅子を置いて思い思いに過ごす場所は確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が居心地良く過ごしてもらえよう利用していたものを持ち込んでもらう様進めています。	利用者はタンス・衣装ケース・テーブル・椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる。家族写真・寄せ書き・カレンダーなどが壁面を飾り、テレビ、位牌、遺影を置かれる方もおり、それぞれ居心地よく生活できる工夫が図られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全て歩行できる場所に手すりを設置してます。 廊下に思い思い過ごせる場所を設けるなど工夫をしています。		